

社 報



安全は難しい

鴻池組 安全大会

5月30日に鴻池組の安全大会が開かれました。安全大会と言えば、表彰式がつきものですが、当日は当社も近藤部の小野職長が施工性の優秀さと、安全成績を評価いただき、個人表彰をいただきました。近藤部の皆さんには、小野職長を中心に優れた仕事で、当社の評価を高めていただきありがとうございます。今後もさらに、腕を磨いて「良い仕事」をしていただきますように、お願いします。感謝！感謝！



「安全は難しい！」良く言われる言葉です。みんなが事故が無くなれば良いと思っても、事故は無くなりません。

そして新しく事故が発生する度に、事故反省会を開催して、事故の発生原因を追求し、対策を立てて、事故の再発防止を実施します。

それを、何年も何十年も繰り返しても事故はなくなりません。だから、「安全は難しい」と言われるのです。

しかし、そうした安全活動により、事故は確実に減少してきています。

それは、労働災害を撲滅しようとしてきた産業人の成果として、堂々と評価されるべきものです。

でも、みんなの願いである、事故ゼロを実現するには、まだまだ遠い道です。

極論を言えば、動物にミスはつきものであるがゆえに、事故が無くなることはないでしょう。それは、現場の最先端で働く職人さんも良く知っています。

釘を打ち損じれば、手を打ち怪我をします。打ち損じは、したくなくても、時には打ち損じて怪我をします。

こんな怪我は無くなるはずがないことを誰もが知っています。

それでも、事故ゼロを目指すと言う、掛け声はおかしいような気がします。

人間国宝と呼ばれるような達人でも、若いうちや修行中には怪我をすることもあり、それが経験となり、肥やしとなっていくわけです。

事故と怪我を一緒にすると、ややこしくてかたまりません。骨折でも事故と怪我があるわけで、事故は無くすべき努力を最大限に行わねばなりません。怪我は個人個人が気をつける問題で、これは事故と一線をひいて考えるべきです。

脚立がどうであるとかよりも、本当に重大な事故を発生させないためには、何をどうすれば良いのかを考えなければなりません。細かいことに捕らわれていては、大事を見落としてしまいます。

安全が難しいのは、努力と結果が結びつかないからだと言われています。しかしこと重大な事故を防ぐと言う点を考えると、努力と結果は必ず比例すると思います。

ただ最近の安全活動を見ていると、これで重大な事故が本当に防げるのだろうか、些細な点にコダワリ、大事な点を見逃すのではないかと言う不安感を覚えることがあります。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

熱中症が心配なシーズンに……

今年は冬に雪が少なかったせいか、夏の暑さが例年以上だと言われています。現場は冷夏の方が良いのですが、地球温暖化が言われている中で、酷暑は確実にかもしれません。

熱中症防止に日除けタレは購入しましたので活用してください。もっと、効果的なグッズがあれば良いのです

が、もしあれば紹介して下さい。会社での購入を検討したいと思います。

命をも奪う熱中症ですから、決して甘くみることなく、気分が悪くなればすぐに治療を受ける必要があります。

**熱中症？
ためらうことなく、すぐ治療！**

2007年 安全成績

現場災害 H19.1.1-H19.6.6	
休業災害	----- 1
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 1
合計	----- 2
交通災害 H19.1.1-H19.6.6	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0